

令和3年度「二条城障壁画 展示収蔵館」原画公開内容

	公開期間	公開内容	公開作品
第1期	4月22日(木)～ 6月20日(日) [60日間]	将軍から見た桜と山水 ～〈黒書院〉 ^{くろしょいん} 対面所の障壁画 ～ 〈黒書院〉一の間・二の間は、将軍と高位の人々が対面した場所とされます。室内には、鮮やかな色彩で、桜咲く春景色を描く障壁画と、墨と淡彩で、山と水辺の風景を描く障壁画があり、華やかさと穏やかさを合わせ持つ空間となっています。今回は、対面の際、一の間に座した将軍が眺めたと考えられる配置で障壁画を展示します。ぜひ、将軍になったつもりで春の景物と山水風景を、眺めてみてください。	〈黒書院〉一の間・二の間障壁画 《桜花雉子図》《楼閣山水図》
第2期	前期：7月15日(木)～ 8月23日(月) [40日間] 後期：10月1日(金)～ 10月19日(火) [19日間]	歴史の舞台〈大広間〉 ^{おおひろま} の対面所 前期：将軍が見た二の間 後期：将軍を取り囲む一の間 二の丸御殿の中心に位置する〈大広間〉には、幕府の権力を誇示するかのよう、一面の金地に巨大な松が何本も描かれています。その対面所は、御殿の最も公的な儀礼の場であり、徳川の栄光と終焉の舞台となりました。二の間は、将軍に対面する大名や外交使節らが控えただけでなく、寛永行幸の猿楽鑑賞の際には、後水尾天皇の観覧の座となりました。一の間は将軍の座です。大政奉還を決意した十五代将軍慶喜は、ここで各藩の重臣たちと対面しました。前後期を通じて、歴史の舞台を体感していただけます。	前期：〈大広間〉二の間障壁画《松孔雀図》 ^{まつくじゃくず} 後期：〈大広間〉一の間障壁画 《松竹錦鶏図》《花卉図》《水仙図》 ^{しょうちくきんけいず かきず すいせんず}
第3期	10月22日(金)～ 12月12日(日) [52日間]	江戸絵画を切り拓く。～探幽の大画：〈大広間〉三の間《松孔雀図》～ 寛永3年(1626)の二の丸御殿障壁画の制作を率いたのは、当時数え年で25歳の狩野探幽 ^{かのえい} でした。探幽は、二の丸御殿の中心に位置する〈大広間〉の一の間から三の間を担当しました。三の間は、対面に先立って謁見者が控える部屋で、一面の金地を背景に、松と孔雀が鮮烈な印象を与えています。広い余白や金箔の処理などに、〈大広間〉の中でも探幽の先進性が最もよく感じ取られる三の間の画面を、じっくりとご鑑賞ください。	〈大広間〉三の間障壁画 《松孔雀図》 ^{まつくじゃくず}
第4期	12月20日(月)～ 令和4年2月20日(日) ※12月29日～31日は休館 [60日間]	〈遠侍〉 ^{とんざむらい} 虎の間の障壁画 ～御殿を護る竹林の王者～ 令和4年の干支にちなみ、虎が描かれた〈遠侍〉一の間・二の間の障壁画を公開します。〈遠侍〉は、御殿の訪問者が、最初に足を踏み入れる場です。竹林に棲む虎たちは、御殿に入る者全てに睨みを利かせて威嚇するような勇壮な姿に加え、穏やかに眠る姿や楽しげに戯れる子虎の姿も描かれます。これらは ^{どうもう しんじゅう} 獐猛な神獣をも安らわせる将軍の絶大な権力を表しています。虎のパラエティーに富んだ姿態と、その豊かな表情を、間近にご覧ください。	〈遠侍〉一の間・二の間障壁画 《竹林群虎図》、〈遠侍〉杉戸絵《竹虎図》 ^{ちくりんぐんこず}